

地域社会とのかかわり

地域社会への貢献活動を通じて、地域の方々と社員や家族たちに、コミュニケーションが広がり、深まっています。

さまざまな地域貢献活動

コスモ松山石油

「コスモの森」45本の植樹を実施

2007年度より、愛媛県と協定を結び「企業の森」づくり活動を実施しています。2007年4月に社長以下22名が参加し、サクラの苗木40本を植樹しました。

2007年9月には、社員・家族40名が参加し、植樹したサクラの苗木の下草刈りを実施。植樹後、初めての作業だったため、背丈ほど伸びた草や葛のつるが一面に覆い、作業が終わるか心配されましたが、大勢の皆様にご参加いただいたことで、予定より1時間ほど早く完了することができました。

そして2008年3月に、42名の皆様の参加のもと、3回目の活動として紅葉の苗木45本の植樹を実施しました。植え付け作業期には自分で植樹した苗木に一人ひとり名前を付けました。地域社会における自然環境の整備の活動を通じて社員相互の交流を深めています。



コスモ石油販売

アカウミガメ放流会

2007年9月、コスモ石油販売浜松カンパニーは、「アカウミガメ放流会」を実施いたしました。浜松市の中田島砂丘で市民環境保護団体と共同で行われ、子ども連れの家族など320人が参加しました。

放流会は5回目となり、海岸の状況について知ること、ふ化したばかりのアカウミガメに触れることでウミガメに対して愛護の気持ちを持つこと、ボランティアについて考えることを目的としています。参加者は、この機会を通し、生命の尊さと環境保護の大切さを学びました。



千葉製油所

鬼泪山保全活用プロジェクト

2007年11月、千葉製油所では「鬼泪山(きなだやま)保全活用プロジェクト」を実施いたしました。コスモ石油千葉製油所や本社の社員、その家族など約70名が参加して、近隣の里山・鬼泪山で、下草刈りなどを体験しました。製油所の社員の多くは地域の住民でもあり、この活動は、社員同士のコミュニケーションを図る良い機会になっただけでなく、社員やその家族を通じて、地域の調和と共生を促進する機会にもなっています。



MESSAGE

「こういう活動って良い!」という実感。
「誇りと自信」を持って地域社会に
貢献していきます。

千葉製油所 総務担当副所長

後藤 浩二



業務以外での社員同士のコミュニケーションが重要だと感じていました。そこで、社員の地域貢献を通じて、地域とのコミュニケーションを図り、自らの気づきを促し、コスモ石油千葉製油所の社員としての誇りと自信を高めるきっかけとするため、本社やNPOと相談しながら鬼泪山保全活用プロジェクトを企画。一方でライン長や社員に、コスモ石油のポジションや活動の目的・内容について説明し、参加を募りました。情報は社員から家族、そして地域の方々へ広がり、また行政にPRいただいたこともあり、当日の様子は新聞記事にも取りあげられました。私自身「こういう活動って良い!」と実感しましたが、参加した社員の中にも「上司に誘われて参加したが、活動を体感して良かった」との声もあり、企業も行政も、地域社会も、それぞれの立場で、地域全体のあるべき姿を共有し、その実現に向けて気持ちを共有することの大切さを学びました。今後も、地域社会のリーダーシップを担っていけるよう継続して活動を展開していきます。